

# ビエンナーレ トリエンナーレ 定期開催の アート展

数年おきに開催される国際アート展が、近年、各地で目立ちます。今夏開幕の横浜 トリエンナーレをはじめ、日本の主なビエンナーレ・トリエンナーレを紹介します。

**「●●エンナーレ」>>>「●●年に一度(の催し)」**  
イタリア語

開催周期をイタリア語で呼ぶ習わしは、100年以上前に始まった国際アート展の元祖ともいえるベネチア・ビエンナーレによるところが大きい。

**2年に一度**      **3年に一度**

開催されるアートの祭典や展覧会      現代美術がテーマのことが多い

▶ 待望感、祭典ムードが盛り上がる  
▶ 予算の面に好都合  
▶ 招待作家からの人選をはじめ、企画の準備に時間が必要

**数年周期の理由**

## 1990年代以降、アジアで続々誕生

### 世界の主なアート展

<p><b>ベネチア</b></p> <p>◎【第54回】6/4~11/27</p> <p>★イタリア・ベネチア ▶1895年</p> <p>★ 国別パビリオン展示や企画展が行われる。今回は過去最多の89カ国・地域が参加。日本は東京(たはいも)の個展「てれこスープ」展を開催。多数のプロジェクトと鑑を使った映像インスタレーションにより、天空と水中の世界を表現している。最高賞の金獅子賞は国別部門がドイツ、企画展出品の個人部門はクリスチャン・マークレー(米)の「ザ・クロック」。同作品は「ヨコハマトリエンナーレ2011」に出品予定</p> <p>▲第54回ベネチア・ビエンナーレ日本館で開催中の「東洋:てれこスープ」展の様子</p> <p>◎Tabaimo / Courtesy of Gallery Koyanagi and James Cohan Gallery 写真: Uteri 写真提供: 国際交流基金</p>	<p><b>カーネギー・インターナショナル</b></p> <p>◎【第13回】2012年6/9~9/16</p> <p>▲ドイツ・カッセル ▶1955年</p> <p>★ 5年ごとに開催(4年に一度だったことも)</p> <p>▲米国・ピッツバーグ ▶1896年</p> <p>★ 4年から5年に一度開催</p>	<p><b>光州</b></p> <p>▲韓国・光州 ▶1995年</p>	<p><b>釜山</b></p> <p>▲韓国・釜山 ▶2002年*</p>	<p><b>北京</b></p> <p>▲中国・北京 ▶2003年</p>	<p><b>上海</b></p> <p>▲中国・上海 ▶2000年**</p>
<p><b>台北</b></p> <p>▲台湾・台北 ▶1998年**</p>	<p><b>シンガポール</b></p> <p>◎【第3回】2011年3/13~5/15 ▶2006年</p>	<p><b>シドニー</b></p> <p>◎【第18回】2012年6/27~9/16</p> <p>▲オーストラリア・シドニー ▶1973年</p>	<p><b>サンパウロ</b></p> <p>▲ブラジル・サンパウロ ▶1951年</p> <p>★ベネチアと重ならない年に開催</p>		

※1: 現名称になった年      ※2: 国際化した年

▲あいちトリエンナーレの会期中、キリストトリエンナーレも開催され、子どもたちが思い思いに楽しんだ。2010年10月、名古屋市愛知芸術文化センターで

**UBEビエンナーレ**

◎9/24~11/13

▲山口県宇部市のときわミュージアム 彫刻野外展示場 ▶1961年

★今回は海外38カ国、363件の応募の中から入賞作品20点を展示。上位2作品はその後、市街地や公園などに設置される予定

前回(第23回)の大賞作品を鑑賞する人

**北九州国際ビエンナーレ**

◎10/1~11/27

▲北九州市の八幡市民会館、八幡湯、キャタリー・ソープなど

★北九州が海外交流の拠点だった歴史を踏まえ、今回のテーマは「移民」。キエフと東京を拠点に活動しているシオン・スナイダーら約10人が参加。海外のアーティストがウェブ上で作品を発表するオンラインプロジェクトもある

移民テーマに展示やシンポ

鳥々の文化とアートを体感

**瀬戸内国際芸術祭**

◎2010年7/19~10/31

▲香川県直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、高松港周辺、岡山県犬島 ▶2010年

★瀬戸内海に点在する島々を舞台に、美術作品の展示や地元伝統の祭典・祭事と連携したイベントなどが開かれた。18カ国・地域から75組、16イベントが参加。期間中延べ約94万人が訪れた

**ドキュメンタ方式**

「ドキュメンタ」のように、全体を統括する総合ディレクター(芸術総監督)がテーマやアーティストの選定など大きな権限を持つ方式のこと。公募展のものを除き、ほとんどのアート展がこの方式を採用している。横浜や神戸はディレクターが毎回異なる。一方、アートNPOや作家主導の手作りのアート展では、ある程度固定されている。

**地図の見方**

**分類**

- 都市部が会場
- 山間部やリゾート地などで開催
- 公募の中から大賞など優秀作品が選ばれ披露される
- 招待作家など参加アーティストの作品披露が中心催事
- ジャンルや地域などを限定
- アートNPOが主導して立ち上げた、もしくは主催している

**データ**

- ビエンナーレ
- トリエンナーレ
- 総事業費が約5億円以上
- 総事業費が約1億~5億円未満
- 今年開催
- 地図上の位置
- 会期(画近開催) 会場
- 開始年 特徴・見どころ

**街で、自然の中で、多彩に開催**

**日本の主なアート展**

表現の場が欲しいアーティストと街の活性化を図りたい行政の思惑が一致し、近年さまざまなアート展が誕生している。

**大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ**

◎2012年7/29~9/17

▲新潟県十日町市、津南町 ▶2000年

★田畑、廃校、古民家などを生かした作品が、越後妻有地域の760kmの広大な「大地の芸術祭の里」に展示。現在も約160点が常設、公開されている

巨大な敷地に約160作品常設

現代アートから伝統芸術まで

**神戸ビエンナーレ**

◎10/1~11/23

▲神戸ハーバーランド、ポア・アイ・おさい公園、兵庫県立美術館、元町高架下(JR神戸駅~元町駅間) ▶2007年

★今年のテーマは「きら」。メインコンペの一つアート・イン・コンテナ国際展から、書や生け花といった伝統芸術、大道芸まで多彩なコンペがあり、入賞作品が披露される。また、招待作家らによる企画展、きらkiraコンサートなどのイベントもある

現代アートから伝統芸術まで

**高知国際版画トリエンナーレ**

◎10/8~11/20

▲高知県のいの町紙の博物館 ▶1990年

★版画用紙としても通している「土佐和紙」の知名度アップと情報発信を狙い、今回は世界53カ国、1580点の応募の中から優秀作品181点を展示

**福岡アジア美術トリエンナーレ**

◎2012年 ▶1999年\*\*

▲福岡市の福岡アジア美術館と周辺地域

★アジア交流の拠点都市福岡ならではのアジア現代美術展。21カ国・地域の美術の新潮流を紹介する。海外作家を招いて共同制作ワークショップ、パフォーマンスなどを行う

※現名称になった年

**アートNPO**

作品鑑賞の機会を提供作家や芸術団体の支援や町づくりや教育普及や芸術に関する調査など、さまざまな活動を行う。アート展を主催しているところもある。2006年度は約1700団体だったが、10年度には4000を超えた。

**ボランティア**

作品鑑賞、ワークショップや交流イベントとは違う角度で「祭典」に関わる方法にボランティア参加がある。大規模なアート展になれば担当が分かれ、研修などもたびたび行われる。昨年初開催のあいちでは延べ約240人が登録した。越後妻有のサポートスタッフ組織は「こへび隊」、瀬戸内は「こへび隊」と、ネーミングもユニークだ。

来場者を案内するあいちトリエンナーレのボランティア

**札幌ビエンナーレ**

2014年の本開催に向け、進行中

にぎわう2009年の「アート・イン・コンテナ」展。今年は神戸ハーバーランドに会場が変わり、コンテナの空間をつくって展示される

札幌市街にアートと温泉が楽しめる

**金沢・世界工芸トリエンナーレ**

◎2010年5/8~6/20

▲金沢21世紀美術館、リファール ▶2010年

★初回は5人のキュレーターによる展覧会とシンポジウムを実施。東アジアの作家46組の作品約200点を展示した

港の都市がアートに染まる

**あいちトリエンナーレ**

◎2010年8/21~10/31

▲愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町、納屋橋、名古屋城などいづれも名古屋市内 ▶2010年

★現代美術展を中心に、ダンスや演劇などのパフォーミング・アート、オペラなど広い範囲に及ぶアートの最先端を紹介。世界24カ国・地域131組のアーティストが作品を披露した大規模な国際芸術祭。期間中延べ約57万人が訪れた

演劇なども含む総合的な国際芸術祭

**あおもり国際版画トリエンナーレ**

◎2010年12/11~11年1/23

▲青森市の青森公立大学国際芸術センター青森 ▶2001年

★横方志功らを出した土地柄から、版画文化の普及と才能の発掘を目指し開催

**中ノ条ビエンナーレ**

◎8/20~10/2

▲群馬県中之条町町内41会場 ▶2007年

★国内外から124組が参加。商店街や木造校舎など町全体を美術館に変える。四方(しま)温泉をはじめ多くの温泉郷を抱えており、温泉とアートを巡る癒やしのひとときも味わえる

京塚温泉に設置展示される鈴木孝幸「place/white」

**横浜トリエンナーレ**

◎8/6~11/6

▲横浜美術館、日本郵船海運通商ビルほか ▶2001年

★今回のタイトルは「OUR MAGIC HOUR」。ダミアン・ハースト(英国)、横尾忠則、ミュージシャンでもあるカールステン・ニコライ(ドイツ)、テーマと同タイトルの作品があるウーゴ・ロンディノーネ(スイス)ら約20カ国78組が参加し、多様な素材やメディアを駆使した作品を披露する。クリスチャン・マークレーの「ザ・クロック」は、時刻を示している映画のシーンを分単位で集めて24時間を構成した作品

▲第9回国際陶磁器展美濃の作品 最終審査—2011年7月、多治見市で

**国際陶磁器フェスティバル美濃**

◎9/16~10/23

▲岐阜県多治見市のセラムパークMINO、多治見市、土岐市、瑞浪市 ▶1986年

★フェスティバルの中心事業の「国際陶磁器展美濃」は陶磁器デザイン部門と陶芸部門からなり、世界57カ国・地域から2777点の応募があった。国内外の著名な審査員により、優秀作品190点が選ばれた。ほかに、企画展やクラフトフェア、大衆演説市、制作体験、盛りつけコンテストなど、焼き物を軸にしたイベントが広域で展開される

▲現在でも見ることができているナウ・ラン・ラン「新生の地」—名古屋市中区錦で

**とめ 登米アートトリエンナーレ**

◎2010年9/1~10/31

▲宮城県登米市のサル・サトウ・アート・ミュージアム、明治村「登米町」、南方花菖蒲の郷公園など ▶2010年

★幾何学構成アートに的を絞ったアート展。世界的に活躍する造形作家佐藤達彦の出身地に開催した「サル・サトウ・アート・ミュージアム」が幾何学構成抽象絵画のコレクションをしていることなどから開催

**ウーゴ・ロンディノーネ**

「moonrise.east.march」2005

Photo: Ellen Page Photography, Courtesy the artist and Galerie Eva Presenhuber, Zürich

◎The artist

▲クリスチャン・マークレー「The Clock」2010

◎The artist, Courtesy White Cube

**世界ポスター トリエンナーレトヤマ**

◎2012年6/9~8月中旬

▲富山市の富山県立近代美術館 ▶1985年

★世界有数のポスターコンペ。前回は49カ国・地域から約4500点の応募があった

**堂島リバービエンナーレ**

◎7/23~8/21

▲大阪市の堂島リバーフォーラム ▶2009年

★ホールやギャラリーを備えた複合商業施設「堂島リバーフォーラム」が企画。「エコソフィア アートと建築」をテーマに、「地図」「水園」「気園」の三つの園に、20人の作品を展示。音楽は坂本龍一が書き下ろしている

**震災の影響? 節電、会場変更**

参加キャンセルは目立たず、むしろ、作品コンセプトを強調や癒やし、励ましなどに変更して臨む向きもある。横浜は休日の増加や開催時間の短縮などで節電を図る。神戸は、会場設営の建築資材などを被災地に優先的に回そうと、会場の一つを変更。被災者のコンペ出品料を免除している。越後妻有は常設作品の一部撤換し、改修している

現代美術といえば、難しくとらえられ、展覧会を開いても動員は芳しくなく、と相場が決まっていた。だが昨年開催された「瀬戸内国際芸術祭」の約九十四万人、「あいちトリエンナーレ」の約五十七万人という動員実績からもわかるように、アート展に関してはそれは当てはまらない。一般の美術展と異なり、アート展の開催期間中は、美術館だけでなく、他の公共施設や公園などの屋外にも多くの作品が設置される。また国内外からさまざまなアーティストが参加し、場合によっては百人を超えることもある。スケールの大きなアート展はまるでお祭りの様相だ。現在、全国各地の自治体では町おこしや観光客の誘致のためにアート展に取

**アートプラント**

◎8/13~9/11

▲東京都東大和市の狭山丘陵一帯 ▶2007年

★テーマは「link(含奏)」。国内外の作家25人が参加し自然を組み込んだ作品などを披露。会期の前半は海外作家が市民らと共同制作する

▲山田の自然がステージ

**アーティスト・イン・レジデンス**

一定期間滞在し創作活動に専念できる環境を作家に提供するプログラムや施設をいう。会期前から作家がその地に滞在して創作活動にあたり、会期中に滞在しながら制作する「アーティスト・イン・レジデンス」型の作品制作・発表は、アート展の傾向の一つだ。

▲現在日本で開催されている主なアート展は、多くは現代美術を対象としているが、なかには版画や陶磁器をテーマとしたものもあり、規模も大小さまざまなものがある。

**BIWAKOビエンナーレ**

◎2012年9月中旬~11月頃

▲滋賀県近江八幡市旧市街 ▶2001年

★名称はビエンナーレだが、これまで3年周期で開かれている。「伝統とアート」を切り口に、近江八幡旧市街にある空き家や元工場、寺の境内などに現代アートを展示して、町の魅力の再発見と発信を図る

▲水園に展示されるチームラボの「百年海図巻」

**現代美術を身近にする祭典**

喜沢剛巳

▲制作: 東京本社サンデー版編集部 坪坂美智代  
▲取材協力: 喜沢剛巳氏、各アート展の主催者  
▲写真協力: 各アート展の主催者  
▲典拠・参考文献: 「ビエンナーレの現在」(喜沢剛巳・難波祐子編著、青弓社)、「現代アートナマ読み」(喜沢剛巳著、東京書籍)、「現代美術のキワード100」(喜沢剛巳著、筑摩書房)、各アート展・関係機関のHPなど

**現代美術を身近にする祭典**

喜沢剛巳

▲制作: 東京本社サンデー版編集部 坪坂美智代  
▲取材協力: 喜沢剛巳氏、各アート展の主催者  
▲写真協力: 各アート展の主催者  
▲典拠・参考文献: 「ビエンナーレの現在」(喜沢剛巳・難波祐子編著、青弓社)、「現代アートナマ読み」(喜沢剛巳著、東京書籍)、「現代美術のキワード100」(喜沢剛巳著、筑摩書房)、各アート展・関係機関のHPなど

**現代美術を身近にする祭典**

喜沢剛巳

▲制作: 東京本社サンデー版編集部 坪坂美智代  
▲取材協力: 喜沢剛巳氏、各アート展の主催者  
▲写真協力: 各アート展の主催者  
▲典拠・参考文献: 「ビエンナーレの現在」(喜沢剛巳・難波祐子編著、青弓社)、「現代アートナマ読み」(喜沢剛巳著、東京書籍)、「現代美術のキワード100」(喜沢剛巳著、筑摩書房)、各アート展・関係機関のHPなど

**現代美術を身近にする祭典**

喜沢剛巳

▲制作: 東京本社サンデー版編集部 坪坂美智代  
▲取材協力: 喜沢剛巳氏、各アート展の主催者  
▲写真協力: 各アート展の主催者  
▲典拠・参考文献: 「ビエンナーレの現在」(喜沢剛巳・難波祐子編著、青弓社)、「現代アートナマ読み」(喜沢剛巳著、東京書籍)、「現代美術のキワード100」(喜沢剛巳著、筑摩書房)、各アート展・関係機関のHPなど